

提出日 令和 6年 9月 23日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
2024年度漢字まなび活動助成制度 活動報告書

団体名: 福島県漢字同好会
代表者名: 会長 八重樫 一

下記の活動について活動を終了いたしましたので、報告いたします。

1. 活動名	～福島県漢字同好会創立20周年記念講演会～ 笹原 宏之教授特別講演会		
2. 活動日 活動期間	令和6年8月11日(日)		
3. 活動場所	郡山市 市民交流プラザ 大会議室（郡山駅前 ビックアイ7階）		
4. 活動目的	漢字に親しみ、興味をもっていただくこと。 漢字文化への理解を深めること。		
5. 対象	対象 同好会会員・一般の方(漢字に興味のある方ならどなたでも) 定員 100名		
6. 参加費	無料		
7. 参加人数	71	名	内訳(小学生 名、中学生 名、高校生 名、一般71名)
8. 活動結果 (自由記述・写真貼り付け等可)	1 演題 地域による漢字の違い ～僞・糞・堦・垠など「方言漢字」の世界～ 2 内容 日本列島に散らばる、地域性を帯びた漢字や国字を「方言漢字」と呼び、全国各地の面白い実例を、方言漢字のできた背景と一緒に身近な例を取り上げながら、たいへんわかりやすく解説していただいた。 3 感想 国土が狭くとも地形が複雑で、古くから旧国、藩、村などの単位で地域社会が発達し、独自の多様な文化が育まれてきたからこそ、たくさんの方言漢字が生まれ、そして今も日本に残されていることに誇らしさと驚きを感じた。 方言漢字は、各地で生活の中に息づいてきたものだが、とりわけ地名に豊かに表れるそうで、私たちの使っている地名の漢字も方言漢字だったのかと再発見の連続だった。 「閑 ゆり」や「圪 がけ」の字のように、津波や水害に被災された先人が、警告として地名に記し、後世へと伝えられてきた文字に込められたメッセージを、次の時代に大切に伝えて行きたいと思った。 参加者からも、アンケートに「地名に興味をもった」「あつという間の公演だった」「もっと話が聞きたい」「次回はいつか」といった声が寄せられ大変好評だった。		

以下の資料を必ず添付して申請してください。

☒ 【様式2-2】漢字まなび活動助成制度 収支決算書

☒ 収支決算書に記載した費目の領収書のコピー(折り曲げず、領収書貼付用台紙に貼り付けて提出ください)

・複数ページにまたがっていただいても結構です。
・本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えないものをご提供ください。

書類の送付先

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 「漢字まなび活動助成」係
メール: planning@ic.kanken.or.jp
郵送: 〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地

8月11日(日) 笹原教授特別講演会





※この講演会は、公益財団法人日本漢字能力検定協会 2024年度「漢字まなび活動助成制度」の対象活動です。

福島県漢字同好會主催
特別講演会

令和六年
八月十一日
午後二時開演

「方言漢字」の世界

聴講料
無料

地域による漢字の違い



早稲田大学 大学院教授
笹原 宏之

※事前申し込み不要
当日会場にお越しください

東京都生まれ。早稲田大学 社会科学総合学術院教授。
JIS漢字・人名用漢字・常用漢字の選定・改正に携わるほか
辞書や雑誌の編集委員を務める、国字研究の第一人者。



詳しくはこちら▲
(福島県漢字同好會ホームページ)

会場案内

郡山市民プラザ(ビッグアイ7階)大会議室
郡山市駅前二丁目11番1号
TEL 024-922-5544